広島県県会議員（三原市・世羅郡区）
発行：伊藤英治事務所　〒723-0146　三原市沼田東町納所27番地
TEL：0848-60-9022　発行日：令和３年８月31日　討議資料

「ひとが一番」の強く優しい地域づくり

いとう 英治（えいじ） 通信

～三原・世羅 & 広島のために～

For MIHARA・SERA & HIROSHIMA

令和3年 9月
第5号

挑戦１ 被災経験を活かす
まちづくり支援
- 災害からの復興
- 自然との共生
- 広域まちづくり

挑戦２ 人を大事にする道徳
ひとづくり支援
- 子育て世代、働く人、スポーツ支援
- 生きる力

挑戦３ 中小企業の活性化
産業の支援
- 地場産業の強じん化
- 新規事業、新規技術の開発支援

挑戦４ みんなが住みたい地域づくり
行政改革
- より効果がある効率化
- 住民満足の向上

DX（デジタルトランスフォーメーション）が支える新しい社会

ごあいさつ

広島県議会議員に選出され，早いもので２年が過ぎました。１期４年を一区切りと考えると，半分を過ぎた事になります。任期中には，あれもやりたい，これもやりたいと思い描いていておりましたが，残念ながら思わぬ出来事が続いています。河井問題から始まった広島県内の政治不信に新型コロナ感染が加わり，未だに出口の見えない状況が続いています。

政治問題は行動で信頼回復していくしかありませんが，コロナ問題は変異を繰り返す厄介な相手であり，ワクチンで集団免疫獲得を目指すことは，現在，最良の策と思っております。多くの研究がなされており，新しいワクチンや特効薬が期待されているところですが，今しばらく時間がかかると聞いています。また，様々なご意見がある中ですが，感染者発見には PCR 検査に頼るしかなく，PCR 検査による早期発見・早期隔離とワクチンによる集団免疫獲得により，早い収束が進み，コロナに関する様々な混乱が減っていき，無くなることを期待しています。

昨年のコロナ禍で，スウェーデンでは，政府が集団免疫を獲得するため，国民に対し通常の日常生活を推奨していました。国民の７割がコロナにかかって，免疫を獲得すれば収束すると言うものです。重症化しやすい高齢者は外出を控え，買い物はボランティアが行っていました。驚くべきは，高齢者が罹患し重症化しても，ICU の使用を認めないという事でした。当然死亡者は増え続け，見るに見かねた国王が，政府に政策転換を促しました。これを受け，政府は集団免疫をワクチンによって獲得すべきと政策を改めました。

本当に驚くのは，この間，国民はずっと政府を信じていたことです。死亡者が増えていても，それでも政府の政策を信じていたのは，なぜなのか興味深いところです。福祉大国と言われる国の税率の高さと国民の政府への信頼は，今の日本では考えられない気がします。コロナ問題については，国内だけでなく海外へも目を向け，何が起こっているのかを，しっかり知る必要性を感じています。失った信頼を取り戻すヒントがどこかにあるのではないかと思っています。

今後も与えられた使命の本質を考えつつ，コツコツ頑張って参る所存です。

文教委員長に選任されました

▲平川教育長とともに

2021 年６月定例会において，文教委員長に選任されました。教育委員会と県民環境局の一部（県立大学関係）を所管しています。

本年，新しく叡啓大学（えいけいだいがく）が開学し，多くの授業が英語で行われる等，特色のあるカリキュラムが組まれています。秋入学の留学生も２割ほど９月に入学予定です。入学には英検２級の取得が条件になっており，いわゆるワールドワイドに活躍できる国際人の育成を目的としています。

一方，教育委員会では，平川教育長の元，**「学びの変革」**に取り組まれ，自ら課題を発見し解決に取り組むことにより，**生きるチカラ**を育む取り組みが進んでいます。これまでは，答えのある問題を解く，例えば，数学の問題の解き方が複数ある時は，如何に華麗なる解き方をするか？！といった感じでしたが，答えの無い課題に取り組むことは，複雑化して行く社会の中で，自分を見失わない事になるのだろうと，大いに期待しています。

委員長の任期は一年ですが，子どもたちの輝かしい未来の為になるような取り組みを進めて参りたいと思います。

待望の木原道路（国道２号バイパス）が開通

【福地IC付近】

（令和3年1月撮影）

【糸崎ランプ付近】

（令和3年1月撮影）

2021 年 3 月 14 日**木原道路**（国道 2 号バイパス）が開通した為，三原バイパスと尾道バイパスが繋がり，交通混雑の緩和，災害時の代替路，救急搬送等の効果が期待されています。しかしながら，三原バイパスは新倉から本郷方面にかけて新たな混雑が出てきており，国道 2 号の通行に支障がでてきています。当然予想されたことで，❶**バイパスの西方面への延伸**を一般質問や要望して参りました。計画の俎上に上るまで，引き続き要望を続けて参ります。

加えて，南北交通の要となりうる❷**広島中央フライトロード**（空港～世羅）の要望を続けてまいります。

コロナによりグローバルな交流にブレーキがかかっていますが，アフターコロナは空港を核として，新たな形での人流・物流が進むと思われます。広島空港が中四国の拠点として十二分に機能していくには，**東西南北の“ぶ厚い”インフラ**整備が重要になると考えています。

（広島県防災キャラクター
：タスケ三兄弟）

◀ 2021 年７月８日で目立った支川護岸の崩壊

▼傾斜地の崩壊（三原市第五中学校裏山）

ひろしまマイタイムラインの普及

2021 年７月８日の豪雨により，災害が発生しました。河川からの越水による浸水，河川の破堤，護岸の損壊，土石流，がけ崩れなど，３年前を思い出させる出来事でした。また，三原の一部地域では，満潮の時間帯でもあり，**時間あたりの雨量が 70 ミリ以上**と多かった為，排水が追いつかず，側溝からあふれる事態も起きました。そのため，多くの床下・床上浸水，一部損壊にみまわれました。被害に合われた皆様にお見舞いを申し上げると共に，今後のまちづくりのあり方について，災害が起こる前提で考えていくべきであると，改めて感じています。自然が相手なので，災害を食い止める事はできないかもしれません。そこで，人の命を守るため，起こった時の避難行動について，県の進めている**「ひろしまマイタイムライン」**の普及に努めたいと思います。

7月8日の災害についてまとめたものを東部建設事務所三原支所長に，受け取っていただきました。（域内全て把握できているものではありませんが，十数ページにまとめたものです。）

この度の災害時に気づいた点。

- 市長の広報が防災ラジオ，みはら TV ，SNS 等メディアを使って適時適切に行われたこと。
- 災害確認に地元地域を良く知る市議会議員の先生方が素早く動かれ，情報共有が早かったこと。
- 災害箇所の確認に，市の職員さんが素早く来られていたこと。
- 消防隊員や消防団の皆さんのスピーディーで的確な動きが目立ったこと。
- 国や県からポンプ車が速やかに来ており，市との連携がうまく取れていたこと。

等など，豪雨時，災害への対応に３年前の教訓・経験が活かされていたように思います。

▲赤羽国土交通大臣による県内視察

▲３年前と同様に破堤した天井川

尾三地域での PCR 検査場設置を要求、実現

❶ PCR 検査の全県展開
❷三原市長とともに県に強く要望し、三原市港湾に臨時検査スポットが設置される
❸期間終了。再度の設置を強く要望
❹７月 13 日までの限定で三原市役所入口に PCR センターサテライト設置
❺８月 31 日まで期間延長及び毎日の検査が実現

昨年より本年７月まで，**生活福祉保健委員会の副委員長**をさせていただきました。この委員会は，コロナ委員会と言っていいほど，中心的な役割を果たしています。

昨年末に県内でもコロナの感染拡大が進み，PCR 検査会場が広島と福山の２会場から三次，東広島，広島（追加）の５会場となりました。

❶広島県としては，全県展開を図るとのことでしたが，私は**尾三地区に PCR 検査を受けられる場所が無い**ことを問題と捉え，委員長（尾道選出議員）と共に，尾三地区への設置を要望していました。設置された地域では，クラスターが発生し感染者が増加していましたが，尾三地域はクラスターが発生しておらず，感染者が比較的少ない状況もあり，拡大地域に力を注いでいた事は理解しています。しかし，発生してからでは混乱が起きるので，事あるごとに要望してきていました。

❷そんな中，４月に三原でクラスターが発生し，感染を心配する人が多くなった事を憂慮し，委員長と相談。三原市からも設置要望が県に上がっていたのですが，再度市長から県に強く要望するようお願いし，会派の会長にもお願いし，委員長のかなり強い要望もあって，クラスターの発生した**三原市の港湾に臨時検査スポット**が設置されました。

（PCR 検査が完璧なものでなく，色んなご意見があるのは承知していますが，何より，身近で受けられる安心感を得ることは重要と考えています）

❸期間限定でしたので，**期間の延長**を要望していたのですが，県内の感染者の急増により，検査体制の見直しから，一旦予定通り終了となりました。速やかに，もう一度検査スポットを設置するよう要望をしていましたが，感染状況等により**再度考える**ということでした。コロナ感染は，増減を繰り返すので次の波が来る前に，設置するようお願いしていました。

❹６月 14 日に**三原市役所入口に PCR センターサテライト**が開設しましたが，７月 13 日までとのことで，夏休み等で人流が増える危険性を危惧していました。

❺そして，関係者のご努力もあり，**８月 31 日まで期間延長**となりました。三原市長を始め職員の皆様方の県に対する強いご要望や働きかけにより実現しているものと認識しております。私はそれを全力で応援したに過ぎません。休日返上で対応を続けている県の関係職員の皆様にも感謝しています。

現在，希望者へのワクチン接種が進み，集団免疫獲得に向け動いていますが，各市町での本当に素晴らしい動きを見る傍ら，国からのワクチン供給の不透明な状況が気になっています。ワクチン供給に翻弄されている市町の職員の皆様や医師会を始め協力頂いている皆様には，申し訳なく思っておりますが，何卒，引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。

議員インターンシップ

課題『未来自治体』

大学生を受け入れています（2ヶ月間／１シーズン）。**政治に関心**を持ってもらうこと，**議員の仕事を理解**してもらうことも大事ですが，若い人が何を考えどのような未来を思い描いているのか，政治の課題についてどのように考えるのかを我々政治家が知ることは大変重要です。

お互い切磋琢磨し合う２ヶ月間を毎回送っています。

令和３年２月～３月の主要な活動の一部です。

▲現役の先生との意見交換

議員インターンシップでは，**未来自治体**（30年後を見据えて，10年後自分が市長だったら，どのような政策を立てるか，予算と共に立案し，プレゼンする）という取り組みがあります。

私の受け持っている学生さんたちは，安芸高田市に注目し，政策を立てる事にしました。

そこで，安芸高田市まで行って，まちを見て，現地の人と話をし，現状把握をしたとのことでした。それなら，もう一つの視点ということで，安芸高田市選出の玉重県議から地元の活きた情報をいただきました。

▲県大会での発表風景

●県大会で優勝し、全国で９チームに選ばれる

県大会で優勝しました。本当にすばらしい提案でした。

その後，日本一住みたいまちを決めるコンテスト、「未来自治体全国大会 2021」のWEB全国**準決勝大会**までいきました（**全国の若者、1452名/574チームが参加**）が，残念ながら決勝進出４チームには選ばれませんでした。しかし，全国で９チームに残れたことは，素直に嬉しく思っています。これは，あくまでも，私の指導云々でなく，学生達が足で活きた情報を集め，他人の話に素直に耳をかたむけ，熟考し，プレゼン能力を磨いた結果だと確信しています。

学生たちが，自ら課題を発見し，自ら解決方法を模索し，まとめ上げたことが，これからの力になることを願っています。私は，視点を変えるアドバイスや戦国時代の歴史的背景や現状インフラと未来のインフラの考え方等を提供したくらいです。

活動風景の1部

▲広島県議会議事堂

▲世羅町の文化を残す資料館にて地元の人に説明を受け，意見交換。

▲文化財認定も視野に入った旧広島陸軍被服支廠にて現状を説明し，若い人の率直な意見を聞きました。

▲中本広島県議会議長との意見交換

▲岡田三原市長との意見交換

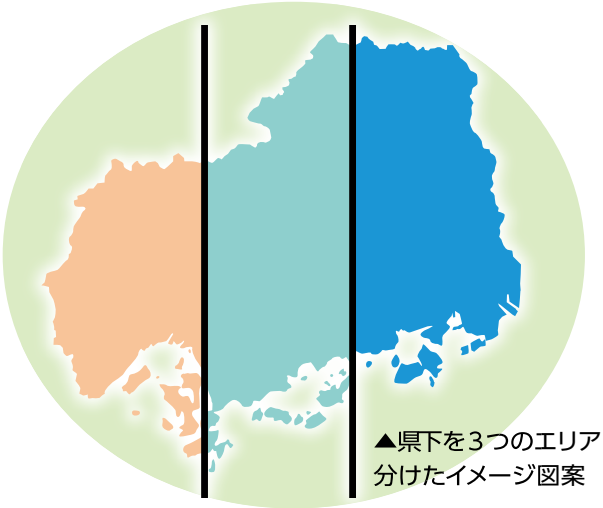
▲奥田世羅町長との意見交換

広島県の均衡ある発展に関する一考察
～都市部と過疎部の格差是正を目指して～

1. 広域的な行政の仕組みづくりの必要性

▲（一社）三原青年会議所が開催したパネルディスカッションのプログラム

（一社）三原青年会議所主催で，平成５年に「“県下”三分の計を語る」と題して，広域パネルディスカッションが行われました。これは，古代中国の三国志において，諸葛亮が劉備に進言した国土を三分割して治める「天下三分の計」をなぞるものであり、具体的には、広島県を**一定の権限が付与された西部・中央・東部の３市に分ける**という，広域行政を一層推進していくというものです。



▲県下を３つのエリアに分けたイメージ図案

これはあくまで手段であり，その目的は県土の均衡ある発展であり，スケールメリットによる住民生活向上であり，行政の効率化や地域間格差の縮減などであります。一見すると「無謀で非現実的」と一蹴する人もあるとは思いますが，政令市である広島市を見ても分かる通り，国からの権限移譲が多くなされ，地域での意思決定による直接的なまちづくりが可能となっています。

人も物もお金も中心部に集まりやすい現在社会の構造では，都市部と過疎地の格差はますます大きくなり，その結果として中山間地域から人が極端に減り，荒廃が進み，その結果，都市部でも災害が頻発することになると思われます。また，山間と里山の境界が不明確となり，都市部でも鹿，猪，熊を見ることが珍しく無くなり，新たな問題が生まれて来るものと考えています。

そして，人が生きる上で大事なものの一つに水があります。飲料は言うまでもなく，山から川を通って流れ出る水に含まれる栄養分が海を育てていることは周知のとおりであります。

こうした現状を踏まえ，中山間地域の課題に目を向け，地域の均衡ある発展を成し遂げていくためには，大胆な構造的な改革が必要であり，この「“県下”三分の計」も一考の価値があると考えます。

2. 選挙制度改革の必要性

この場合，「“県下”三分の計」の導入に合わせ，政治の仕組みを変える「選挙制度改革」が必要であると考えます。

現在は，一人一票を投票し，各選挙区で人口配分による定数の議員が選ばれており，結局，人口が集中する都市部に議員も集中してしまっています。

憲法 14 条 1 項には，＜すべて国民は，法の下に平等であって，人種，信条，性別，社会的身分又は門地により政治的，経済的又は社会的関係において差別されない。＞と「法の下の平等」が保障されていることから，「一票の格差」として裁判になっていることは十分に理解した上で，この紙面では，現状を踏まえ，将来のあるべき姿を描き，どう変わるべきかという私なりの考えを記述していきます。

さて，広島県議会議員の例で申し上げると、広島市内選挙区の定数は 25 人です。全県議定数が 64 人ですから，全体の 39% を占める一方で，面積で考えると，広島市は全県の 10.7% を占める程度であります。

もちろん，県議会議員は，その県の発展のため，全県民が幸せに暮らせるために存在するものでありますが，

現実として人と物の流れと同様に，政治家の目も票が多い都市部に向きやすく，行政においても都市部や市町中心部への政策に偏ってしまう傾向があるのではないでしょうか。

過疎部の衰退は都市部の生活にも強く，長く影響を与えるという認識の下，都市部と過疎部の格差において，こうした政治的な要因を最小限にするには，住民の関心がその県域あるいは市域全般に広がり，政治家があるべき姿を追求しやすい環境整備を考えて行かねばならないと思います。

例えば，人口密度を切り口に考えた場合，広島市中区は，9,318 人 / 平方 km で最も過密な地域であり，最も過疎な庄原は 27 人 / 平方 km です。中区の県議定数が 3 なので，県議一人あたり 3,106 人 / 平方 km となります。庄原は中区に比べて約 115 倍の過疎とも言えます。つまり，人口密度を切り口にすると，中区では 1 人 1 票持つ事に対し，庄原では 1 人 115 票持つことで，等しく投票出来る事になります。ちなみに，県内の平均は約 484 人 / 平方 km・県議であり，平均を元に計算すると，庄原では 1 人 18 票持つことになります。そして重要なのは，県議会議員選挙であれば全県区で選挙行うといったように，行政区域を一つの選挙区とすることであります。

冒頭で申し上げた「“県下”三分の計」による３市の市議会議員も県土の 1/3 が選挙区となり，また，沿岸部から中山間地域までが対象となることから，それぞれの市域のことを，丁寧に踏査した上で真剣に考え行動せざるを得ない状況が生まれることになるため，政治活動も広範囲となります。

また，「“県下”三分の計」による３市が実現した場合，市議会議員定数を充実させるべきであり，県と３市との役割分担に合った市議会・県議会議員の定数も変更になります。

活動範囲が広くなり、職業として政治活動に専念せざるをえない状況が生まれることになるため，選ぶ側も選ばれる側も今まで以上に本気になり，政治への関心も高まる効果もあります。報酬に関しては，その活動範囲にあった金額が適当となり，議員のなり手不足の解消にも繋がると思います。

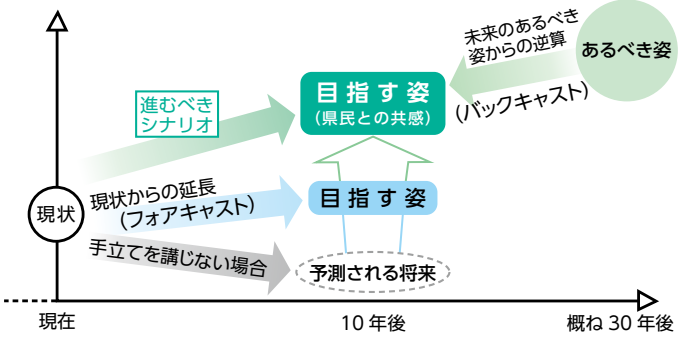
こうした「“県下”三分の計」には広域合併が必要になりますが，平成 22 年の合併特例法改正により，県の積極的な関与は廃止となっており，地域自治体や住民の合意により進むことになっており，逆にハードルが高くなった現実もあります。

ここまで書いてきたことは，あくまで方向性を示そうとしているものです。３分割が正しいのか，と言っているわけではありません。安芸と備後の２つがいいのか，県境を超えて考えることも否定されるものではありません。

「バカバカしい」，「絵空事だ」，「そもそも議員が YES というわけがない」等など否定的なご意見が聞こえてきそうです。現状から見るとそうなるでしょう。

3. フォアキャストからバックキャストへ

広島県は，新しいビジョンが策定し，本年４月から始動しています。現状からの延長上で政策を考えるフォアキャストではなく，未来のあるべき姿を考え，そこからバックキャストで政策を考えていることが大きな特徴です。



議会もそれにあわせてバックキャストで考えた時，選挙制度の刷新を含めた議会改革の必要性を，投票という一つの切り口から考えてみたものですが，道州制の議論が停滞している今，地方自治のあり方の一つとして議論の余地は十分あると考え，今後も調査・研究を進めてまいります。

また，新しいビジョンでは，施策の貫く視点の一つとして，経済成長と人口減少社会の課題解消の切り札と言われる「ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進」が掲げられています。

「“県下”三分の計」と選挙制度改革は，十分な議論を尽くす必要があり，多くの時間を要すことは容易に想像できますが，都市部と過疎部の格差は待ったなしの状態であります。

その間，医療・福祉，交通などの日常生活の安心に直結する様々なサービスを，デジタル技術を活用して効率的に進める施策の展開を後押し，仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれの欲張りなライフスタイルの実現に向けて，これまで以上に議員活動に邁進してまいる所存です。

写真で見る活動報告

◀道の危険箇所の改善要望の為，現地を視察しました。

◀コロナに負けるな！

▶県の政策でも地元の要望がカギとなります。三原市役所にお邪魔して，説明や意見交換を行うことは重要です。

▶ハード整備においては，広島県東部建設事務所三原支所にお邪魔することが多いです。

整備は県で行われていても，管理は市に移管されていることが多く，市役所や市議さんと連携を取りながら要望を進めています。今後も地道に経験を積んで，素早い対応ができるように頑張ります。

皆様の声を受け止め、伝えます!

「皆様の声と想いを、県政に伝えてまいります」と選挙戦で訴えかけて参りました。
この約束を果たすべく、皆様の元に参りますので、ご連絡を頂ければ幸甚です。

県政報告会・ミニ集会・ご意見聴取・意見交換会　等

グループ・集会・企業あるいは地域団体など、どこへでも参りますので、ご連絡の上日程調整をさせてください。

※コロナ対策を行います（消毒液、体温計、マスクを用意します）

●卓話をさせていただきました

広島空港ロータリークラブ様の例会で卓話をさせていただきました。ご依頼いただきありがとうございました。
内容としては，**1．なぜ県議になったのか　2．県議の仕事とは　3．県の政策　4．その他。**
皆様からの質疑，意見，要望が広島県の未来をより良くしていくと確信しています。

伊藤英治の情報発信

Facebook【ほぼ毎日更新】
www.facebook.com/itoeiji55

ブログ【不定期更新】
ameblo.jp/itoeiji

ホームページ【不定期更新】
www.itoeiji.com

伊藤英治　検索

ホームページから　Facebook、ブログ、YouTubeに移動できます

いとう英治通信他【不定期発行】
年２～３回発行

YouTube 動画配信【不定期更新】
youtube.com/user/itoeiji55

メールマガジン【不定期発行】
登録はitoito＠mail3.piko-piko.netに空メール

皆様のご意見・ご要望をお寄せください

☎0848-60-9022　✉info@itoeiji.com

いとう英治ホームページでは、ご意見・ご要望を送信画面よりお送りいただけます。
また、より詳しい情報、日々の活動も随時ご覧いただけます。ぜひご活用ください。

メール　ホームページ